

社会福祉学科 専門教育科目 体系図

※★は主要授業科目です

科目群の学習目標・到達目標		1年		2年		3年		4年	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
■社会福祉の意義、および社会福祉の基礎理論について理解する 社会福祉学科の教育課程編成の基本方針とともに、社会福祉学に関する代表的な理論・援助技術を理解・習得します。併せてソーシャルワーク教育の重要性、ソーシャルワークの意義と責務及び職務内容について理解を深め、ソーシャルワークに対する情熱や使命感、及び福祉マインドを持ったソーシャルワーカー、教育者、企業人等として自らの目指す方向性を明確にします。 ・社会福祉の原理（歴史・思想・哲学・理論等）と福祉政策（理念・法制度・社会システム）の基本について学びます。 ・ソーシャルワーカーに必要な医学や公衆衛生学（医療や公衆衛生）に関する基礎知識を学びます。 ・心理学の基礎を踏まえて、人の心理的反応と発達過程、基礎的な心理療法を理解します。 ・現代社会の特性や生活の多様性、人と社会との関係、社会問題と背景を学びます。	...	★現代社会と福祉 4					社会福祉の歴史②	仏教福祉論②	
	...	生活問題論②							
	...	医学概論②							
			心理学概論②						
■相談援助をはじめとする社会福祉方法論とともに、相談援助（ソーシャルワーク）の意義について理解する 相談援助をはじめとする社会福祉方法論を習得することで、相談援助の方法とその意義、ソーシャルワーカーの責務及び職務内容について理解するとともに、ソーシャルワークに対する自身の適性を判断し、実践活動に対する情熱や使命感を高めます。 ・社会福祉士、精神保健福祉士の法的な位置づけ、形成過程、倫理を理解し、職域に求められる役割について理解します。 ・相談援助に関する代表的な理論・援助技術を習得します。 ・ソーシャルワークにおける専門職の概念と枠組みを学びつつ、包括的・総合的な支援の全容を理解します。 ・さまざまな環境のなかで生じる生活問題に対処するためのソーシャルワーク実践の全体像を理解します。 ・社会福祉士として多様化・複雑化する社会の諸課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解します。 ・社会資源の活用の意義を踏まえ地域における社会資源の開発やソーシャルワーク実践への展開について理解します。 ・支援を必要とする人との支援関係の形成やニーズの掘り起こしに必要な知識と技術を理解します。 ・個人や家族の主体性を尊重し、個人がもつ力を強化し、社会開発に挑戦していくことについて理解します。	...	★相談援助の基盤と専門職Ⅰ 2	相談援助の基盤と専門職Ⅱ②	★相談援助の理論と方法Ⅰ④	相談援助の理論と方法Ⅱ④				
						★地域福祉の理論と方法④	社会調査の基礎②		
								社会開発論②	社会資源論②
				ボランティア・市民活動論②					
■社会保障制度・政策についての理解を基に、福祉サービス提供組織の役割と経営の基礎理論、社会福祉の政策過程を理解する 超高齢化社会における社会福祉を考えるうえで重要な社会保障制度・政策に関する知識を身につけるとともに、社会福祉行政、財政および福祉サービス提供組織の管理・運営に関する知識を習得します。 ・社会保障の概念や対象及びその理念について、社会保障制度の展開過程も含めて習得します。 ・現代社会における社会保障制度の役割と意義、取り組むべき課題について理解します。 ・社会福祉にかかわる保険制度である年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労働保険制度について学ぶとともに、保険制度以外の社会福祉制度についての知識を習得します。 ・制度・政策論的アプローチにより、社会福祉の政策全般の体系、法的根拠、関連する行政組織を中心に、財政政策、福祉計画、人材の養成・定着政策等の専門基礎の知識を習得します。				★社会保障④		福祉サービスの組織と経営② 福祉政策論②			

※表中の数字は単位数を表し、□②は必修科目、□②は選択科目です。

■社会福祉の各領域における法制度の理解、ソーシャルワークの実践過程及び援助方法について理解する 各福祉実践現場におけるソーシャルワークプロセスの意義や展開方法を理解するとともに、実践の基盤となる基本的な法制度に関する知識や、それらを活用した援助方法を理解するなど、援助活動をする上で必要となる力を身に付けます。 ・高齢者、障がい者、児童・家庭、貧困状態にある人等社会福祉援助を必要とする人々に関わる今日的生活課題に対する法制度の内容と、それらを活用した支援方法を理解します。 ・権利擁護の意義、支える法と仕組み、権利擁護活動の実際について理解します。 ・各社会福祉実践機関・施設等における固有な援助目標、援助内容、支援計画づくり等についての理解を深め、ロールプレイ等を通して各援助の場の特性を生かした実践力を身に付け、チームアプローチを可能とする能力を身に付けます。 ・社会福祉援助を必要とする人々の具体的な生活支援の視点と方法を理解します。 ・保健医療の動向や政策・制度・サービスと実践に必要なソーシャルワーク支援の枠組みを学びます。 ・刑事司法の動向、制度のしくみ、関係機関の役割を理解します。							
■社会福祉援助の理論を実践に応用する 社会福祉実践現場での各種実習を通して、ソーシャルワーカーとしての基礎的能力・知識・技能等を確認するとともに、福祉現場の課題やソーシャルワーカーとしての自己の能力や適性について問題点や改善点を考察するなど、ソーシャルワーカーとして実践的な能力を身に付けます。 ・社会福祉士としての基礎的能力、価値規範、倫理、コミュニケーション能力を習得します。 ・多様な対象者への横断的、包括的支援について実践的に理解します。 ・多様な対象者の事例を用い、必要なソーシャルワークの技術、援助の展開課程、実践モデルを学びます。 ・実習、実習指導を踏まえ、ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得します。 ・実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として体系立てていくことができる総合的な能力を身に付けます。 ・ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術と価値観を統合し、社会福祉士としての使命に基づく支援を行うための実践能力を養い、総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解します。 ・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握することができる能力を習得します。							
■精神障害者とその家族に対する支援について理解する 精神障害者とその家族に対する支援について理解し、精神保健福祉士が行う相談援助活動の基本的な考え方とその方法を身に付けます。 ・精神障害及び精神保健福祉の課題をもつ人やその家族に対する精神保健福祉士の業務と役割、相談支援に必要な価値・知識・技術を理解します。 ・精神保健福祉の基本的な枠組み、精神障害特性や精神医療の特性について理解します。 ・精神障害者の疾病と障害を理解し、個別支援からソーシャルアクションまでの実践の展開と地域に根付いた支援、多職種連携を実践する知識と技術を習得します。 ・精神科リハビリテーションの概念やアプローチを理解し、実践的な技術を習得します。 ・精神障害者の地域生活支援と権利を守る方法について理解します。							

1年		2年		3年		4年	
前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
		高齢者に対する支援と介護保険制度②					
			障害者に対する支援と障害者自立支援制度②	権利擁護と成年後見制度②	更生保護制度②		
			児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度②	ジェンダー福祉論②	生活支援論②		
			貧困に対する支援②				
			保健医療サービス②				
★相談援助演習Ⅰ②		相談援助演習Ⅱ②	相談援助演習Ⅲ②	相談援助演習Ⅳ②	相談援助演習Ⅴ②		
	相談援助実習指導Ⅰ②		★相談援助実習の理解と事前指導②	相談援助実習指導Ⅱ②	相談援助実習指導Ⅲ②		
	相談援助実習Ⅰ②			相談援助実習Ⅱ④			
			精神保健福祉の原理④	ソーシャルワークの理論と方法（専門）④			
						精神障害リハビリテーション論②	

※表中の数字は単位数を表し、□②は必修科目、□②は選択科目です。

	1 年		2 年		3 年		4 年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
■精神保健福祉に関する施策および法制度を理解する 精神保健福祉分野において、実践の基盤となる基本的な法制度に関する知識や精神障害者の地域生活を支える制度について理解します。 ・精神保健福祉法、医療観察法を中心にソーシャルワークの視点から制度の概要と課題を理解します。 ・精神障害者の生活支援（居住、就労、経済等）に関連する制度、福祉サービスの知識と支援内容について理解します。					精神保健福祉制度論②			
■精神保健をめぐる課題、精神疾患とその治療法を理解する ライフステージに関連づけながら精神の健康をとらえ、精神の疾患とその治療について理解し、それらにおける精神保健福祉士の業務や役割を理解します。 ・精神疾患と治療方法について基礎的知識を理解し、チーム医療や多職種連携における精神保健福祉士の役割を理解します。 ・精神医療と人権擁護の歴史から、法制度の課題を理解します。 ・現代の精神保健福祉の動向と課題、精神保健の諸課題とそれに対するアプローチを理解します。					精神医学④	精神保健学④		
■精神保健福祉援助の理論を実践に応用する 精神科医療機関、障害者支援施設等での実習を通して、精神保健福祉士に必要な基礎的な知識・技能等を深め、精神保健福祉現場における課題の発見や解決方法を検討する力、精神保健福祉士としての自己の能力や適性について内省する力など、精神保健福祉士としての実践的な能力を身に付けます。 ・演習における疑似的な体験を通して、精神障害者の置かれている状況の理解、共感的実践能力を養うとともに、問題の解決に向けた総合的かつ包括的な援助について実践的に習得します。 ・精神保健福祉援助の基本となる知識・技能をもとに、多様に変化する生活問題に対処する能力を養い、ソーシャルワーカーとしての力量を常に高めていこうとする姿勢を身につけます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、様々な生活課題を抱える精神保健福祉現場の実際に触れ、精神保健福祉の専門職への認識と自己理解を深め、実践的な力を身に付けます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、精神障害者や家族への支援の実際に触れ、本人や家族のニーズを踏まえた実践的援助力を身に付けます。 ・精神保健福祉援助実習を通して、精神保健福祉士の業務内容や職業倫理への理解を深め、精神保健福祉士に必要な知識・技能や実践的指導力を身に付けます。						精神保健福祉援助演習Ⅰ②	精神保健福祉援助演習Ⅱ②	精神保健福祉援助演習Ⅲ②
						精神保健福祉援助実習指導Ⅰ②	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ②	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ②
■学校におけるソーシャルワークの理論を実践に応用する 学校教育機関を中心とした援助過程について、地域内連携のあり方を含めて理解を深め、スクールソーシャルワークを実践する上で必要となる実践力を身に付けます。 ・課題を抱える児童生徒及びその家族に関する援助の方法のあり方や、児童・家族を取り巻く生活環境上の調整に向けた地域における関連機関相互の連携のあり方を身に付けます。 ・不登校、いじめによって不調をきたした児童生徒及びその家族、教師の状況を理解し適切に関わる知識を身につけるとともに、学習上又は生活上の困難を児童・家族が改善、克服に向えるような援助を行うために必要な理論や知識、技術を身に付けます。					スクールソーシャルワーク論②	スクールソーシャルワーク演習②		
								スクールソーシャルワーク実習指導②
								スクールソーシャルワーク実習②

※表中の数字は単位数を表し、□②は必修科目、□②は選択科目です。

※表中の数字は単位数を表し、2 は必修科目、② は選択科目です。

	1年		2年		3年		4年	
	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
■社会福祉に関わる学びの総仕上げを行い、体系的な学びを完成させる 社会福祉の原理や歴史、相談援助の理論や実践方法、社会福祉制度・政策等に関するこれまでの学習を踏まえ、在学中の学びの総仕上げを行います。 ・ これからの福祉サービスのあり方や生活問題解決に対し、自らの考えを発表し文章化する力を養うとともに、他者の意見から学ぶことで多面的な視点の涵養を目指します。 ・ さまざまな専門領域の学生との演習を通して福祉の専門性を高め、実践的な知識や技術の修得を目指します。 ・ 大学での社会福祉に関わる学びと現場実践に必要な知識や技術を確認します。								共生援助論②
■教職の意義等について理解する 教職の意義と責務及び職務内容について理解するとともに、教職に対する自分の適性を判断し、教育に対する情熱や使命感を高めます。 ・ 学校教育の重要性、教職の意義と責務及び職務内容について理解を深め、教育に対する情熱や使命感、及び福祉マインドを持った教育者としての自らの目指す方向性を明確にします。	教職概論②					★社会福祉実践演習Ⅰ②	★社会福祉実践演習Ⅱ②	
■教育の基礎理論について理解する 教育学、心理学など教育に関する基礎的な理論を学び知識を習得するとともに、法令や教育行政など学校教育を支える基盤となる諸制度に関する基本的な知識を身に付けます。 ・ 教育の本質や理念、教育の目的、教育実践の歴史や思想等についての理解を深め、これからの教育のあり方や教育課題解決に対する自分の考えを述べるようにします。 ・ 学校教育に関する法令の基本的な内容とともに、学校を中心とした教育制度と学校経営に関する事項について理解します。 ・ 児童の心身の発達及び学習の過程について理解します。		教育原理②				教育行政学②		日本国憲法②
■教育課程及び指導法について理解する 小学校における教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、教科指導の基盤となる学習指導要領など教科指導の基盤となる基本的な知識や指導方法（情報機器及び教材の活用を含む）を理解して、教育活動をする上で必要となる指導力を身に付けます。 ・ 今日的課題である学力向上や体力向上などを踏まえ、教育課程の意義及び編成の方法について理解するとともに、カリキュラムマネジメントの意義や重要性を理解します。 ・ 板書、話し方、表情等、授業を行う上での基本的な表現力を身に付けます。 ・ 計画・実行・評価・改善の繰り返しによって自己の授業力が向上することを理解し、その方法を実践的に身に付けます。 ・ 小学校各教科の目標、学習内容、指導法、指導案づくりなどについて理解を深め、教科の特性を生かした指導計画を作成する力や指導的实践力、教材活用能力を身に付けます。 ・ 体験を生かした道徳の授業づくりや道徳的实践力の育成等について理解し、児童が自らの生き方について考えを深める道徳の指導計画を作成する力や実践的指導力を身に付けます。 ・ 総合的な学習の時間の意義と原理及び指導計画作成や指導・評価の考え方を理解し、実践的指導力を身に付けます。 ・ 望ましい集団活動や体験活動、コミュニケーションスキルを高める指導等について理解を深め、特別活動の特性に応じた適切な指導計画を作成する力や実践的指導力を身に付けます。 ・ 特別の支援を必要とする児童の障害の特性及び心身の発達を理解するとともに、教育課程や支援の方法を理解します。			教育の方法と技術（情報通信技術の活用を含む）②		教育課程論②			
			初等体育科教育法①	初等国語科教育法①	初等音楽科教育法①	初等社会科教育法①		初等英語科教育法①
					初等図画工作科教育法①	初等算数科教育法①		
						初等理科教育法①		
						初等生活科教育法①		
						初等家庭科教育法①		
						道徳の指導法②		
						総合的な学習の時間と特別活動の指導法②		
			特別支援教育の理解と方法①					

※表中の数字は単位数を表し、□②は必修科目、□②は選択科目です。

■**生徒指導、教育相談及び進路指導について理解する**
児童理解に関する基礎的な知識や方法を学ぶとともに、発達段階に応じた生徒指導や教育相談等のあり方や指導方法を身に付けます。
・豊かな人間関係づくり、家庭や地域社会との連携等について理解を深め、児童の人格発達を目指した指導ができる実践的指導力を身に付けます。
・子ども理解や保護者との信頼関係に欠かせないカウンセリング・マインド、コミュニケーション・スキル等について理解を深め、教育相談の理論や技法を身に付けます。
・勤労観の育成やキャリア教育等について理解を深め、適切な指導や助言に必要な進路指導の理論や技法を身に付けます。

■**教育の理論を実践に応用する**
教育現場での実習を通して、教職に必要な基礎的な知識・技能等を確認するとともに、教育現場の課題や教育者としての自己の能力や適性について問題点や改善点を考察するなど、教育者としての実践的な能力を身に付けます。
・教育現場の体験を通して子どもとふれあい、教師に求められる資質・能力について自覚するとともに、学校教育が抱えている現実の諸課題への認識を深めます。
・教職の基本となる知識・技能をもとに、多様に変化する教育現場に対処する能力を養い、教員としての力量を常に高めていこうとする姿勢の大切さを自覚します。
・初等教育実習を通して、様々な教育課題を抱える教育現場の実際に触れ、教育職への認識と自己理解を深め、実践的指導力を身に付けます。

■**教科の内容について理解する**
小学校の教育課程で取り扱われる各教科について、それぞれが持つ特性と内容の理解を深めるとともに、各教科の特性と教育的意義を加味した効果的な教科指導ができる力を身に付けます。
・小学校各教科について、学習指導要領の趣旨を理解するとともに、教科ごとの目標と内容及びその果たすべき役割について理解を深め、各教科に関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けます。
・「国語」では、話す、聞く、書く、読むの活動に関する表現力、理解力、思考力、想像力及び言語感覚を身に付けます。
・「社会」では、地域社会や我が国の国土と歴史に関する理解を深めるとともに、観察や調査・見学などの体験的な活動や、それに基づく表現活動の進め方を身に付けます。
・「算数」では、「数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用」の5領域についての理解を深め、数学的な概念を身に付けます。
・「理科」では、物理、化学、生物、地学に関する理解を深め、科学的な見方、考え方を身に付けます。
・「生活」では、児童の発達段階を考慮して、生活の中の具体的な活動や体験を授業内容として構想する力を身に付けます。
・「音楽」では、歌唱・器楽・創作などの表現活動及び鑑賞の活動を通して、音楽に対する感性や知識・技能を身に付けます。
・「図画工作」では、表現や鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動を展開する力を身に付けます。
・「家庭」では、衣食住などの家庭生活に関する知識を深め、実践的・体験的な活動を展開する力を身に付けます。
・「体育」では、運動や健康安全に関する理解を深め、基本の運動、ゲーム、体づくり運動、器械運動、陸上運動、水泳、表現運動、ボール運動に関する知識・技能を身に付けます。
・「英語」では、中・高等学校の外国語科で養うコミュニケーション能力を支える素地づくりとしての小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識・指導技術を身に付けます。

1年		2年		3年		4年	
前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
				生徒・進路指導の理論と方法②			
				教育相談の理論と方法②			
					初等教育実習事前事後指導①	初等教育実習④	
							教職実践演習（小学校）②
	生活① 体育①	国語（書写を含む）① 音楽① 図画工作①	算数①	社会① 理科① 家庭①		英語①	

※表中の数字は単位数を表し、2は必修科目、②は選択科目です。